

教育者研究会で学びました！

平成21年8月7日（金）第46回教育者研究会が、大垣市情報工房5Fシンクホールにおいて開催されました。今号はその様子を紹介したいと思います。

今年度は、全国テーマ「慈愛の心を育てる」を受け、岐阜会場は「思いやりの心を育てる」のテーマで進められました。周到な準備会での確認と立派な設備をもつ会場が、温かく参加者を迎えてくれました。そこには「おもてなしの心」を実感したものです。

開会式は、岐阜県モラロジー協議会古川 定邑会長の挨拶の後、国歌斉唱、(財)モラロジー研究所東海ブロック・黒田 光部長による主催者挨拶がありました。

午前中は、「思いやりの心を育てる」と題して、服部 道雄先生の講演でした。教育にとって一番大切なことではないかとの主張、深夜の道路工事に「やかましいから眠れない」と思うか、「寒空に



実践発表の先生方



閉会の挨拶をされる子安会長

にご苦勞様」と思うかの問いかけに共感を覚えました。小生は「正義に名を借りた冷酷さ」という点について詳しく知りたいと思い、質問をさせてもらいました。歴史においてはフランス革命のロベスピエール、カンボジアのポルポトかも知れないけれど、9.11以降のブッシュ大統領を想起して説明を聞きました。

平成21年度教育実践発表に学んだこと

午後の実践発表は、3人の小中学校の先生方からでした。

大垣市立西小学校・加藤 恵教諭からは、外国人との関わり方を通して「思いやりの心」を高めている実践を伺いました。国際理解教育の公表会を11月12日に控えた北方西小として、中国語しか話せない子を迎えて同様の体験があったので、より身近な実践として親近感を覚えました。

羽島市立竹鼻小学校・加藤 純子教諭からは、生活指導や道徳の指導を通して1年生が「思いやりの心」を温かい言葉かけにより互いに育てている実践を伺いました。確信をもって根気よく働きかけているその姿を想像し、感謝の念を覚えました。

関市立緑ヶ丘中学校・山中 登美世教諭からは、いじめ追放の「信緑宣言」を真に実現させる組織的な実践を伺いました。生徒を大切にしたいと願う学校・家庭・地域社会の連携が強化される中でこそ、生徒が「思いやりの心」を安心して発揮されるのだと、改めて痛感させられました。教師集団の結束に感激。

その後、松崎先生の講演（裏面に掲載）、閉会となりました。意義深い研究会を子安 一徳会長が価値付けてくださいました。

もとす・瑞穂市教道研で研究大会の共催を！

瑞穂市の加藤 悟会長に研究会の共同開催をお願いしました。

講演：命の光を大きく輝かせるために

講演者：元東京都立夜間中学校教諭 松崎 運之助 氏

皆さんは、山田 洋次監督の『学校』シリーズをご覧になりましたか。

小生は、昼働きながら夜間中学に学ぶ様々な年齢の生徒が出る『学校』と、人生に悩む中学生が種子島の縄文杉をめざし旅する中で出会った人に学んでいく『学校IV』が



好きです。さて、山田監督が構想するきっかけとなり、映画制作中にはいろいろな助言を与えてくれた人がいます。西田 敏行さんが演じた主人公のモデルとなった人、その人が、今回の講演者であります松崎 運之助（みちのすけ）氏なのです。映画の主人公とはかけ離れたスリムな松崎氏は、偉ぶったところのないお人柄のようで、実に飄々とした感じで、さり気なく講演会を始められました。

さりげない思いやり

松崎氏は、昭和 20 年満州で生まれました。引き揚げ者の苦労を体験された方です。母親に育てられた兄妹は、貧しい暮らしです。妹を送って保育園へ、そして学校へ通ったそうです。保育園の保母さんが「がんばるのよ」と励ましつつ、いつも食べ物をそっと渡してくれたとのこと。松崎氏の優しさの原点は、仕事帰りを待つ妹への心遣いと母への思慕、さり気なくいただける周りの人への感謝の念によるものと気づかせてもらいました。大学二部で学んだ折夜間中学校での教育実習体験が、教師の道へと決めさせたのでした。

昨日まで見えなかったことが見えた

夜間中学生は、事情があつて学ぶ機会を失っていた人が通つて来ます。上は 83 歳から下は 16 歳まで、様々な事情を背負つた人が教え子となっているそうです。

文字を書けない人には、何から教えたらいいか。釣り針の形を描いて「し」、それが横になると「つ」。「あ」は難しいからはじめからは書けそうもない。なら、書けそうな字から書いてみようじゃないですか。松崎氏の指導観は、マニュアルよりも目の前の子どもを大切にしているのです。

外見・言動がいかにも生徒が、読み書きの不自由な年配者から「あなたは親切に教えてくれる」「頭がいいね」と言われて本気になって教えていくエピソードは、和夫（萩原 聖人さん）とオモニ（新屋 英子さん）の演技を勝手に連想しました。

「何で学ぶか」の問いに年配者は「ここで学ぶと、昨日まで見えなかったことが見えるようになるんだよ」と答えたとのこと。正に直感的に身につけた立派な教育哲学だと思います。

父の漢字は、人と×。父親はやはりダメなんだ。母の漢字の点々は乳房を表すと聞いて、「それはまずい」「隠さないといけない」などと話し合う様子は、イノさん（田中 邦衛さん）が混じつての授業シーンを連想してしまいました。

まちがえても失敗しても安心して認められる空間

山田監督は岩波ブックレット『寅さんの教育論』を 1982 年に出しました。その中に「だれかの失敗話に一同が大笑いする。笑われた本人は赤くなったり、怒ったり、照れくさがったりしながらも、そんなことを通して、孤独に暮らしては決して気付かない個性を知ることができ、ますます个性的になっていくのではないのでしょうか。(略) 勿論、これは集団のお互いが尊敬しあい、愛し合っていないければできないことです。」との記述があります。松崎氏が語る教育実践と相通じるまなざしではないのでしょうか。